

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本理念は旭川荘の基本理念を共有し、基本方針は職員皆で創り上げたもので、利用者の「自由・健康・安全」な生活ができることを基本としている。玄関、事務所と研修室に掲示している	月1回の職員会議や毎朝の申し送りなどで確認している。職員同士のコミュニケーションが図れており、お互いに注意している。基本方針や注意すべき要点など書類にし、色々な場所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会には参加できていないが、地域で開催されるイベントには皆で参加している。また、日常的に散歩や買い物等に出掛け地域との交流に努めている。夏の夕涼み会には地域の方々や家族を招待し交流をいただいている。	毎年、近くのグラウンドで行われる地域のお祭りには利用者家族も一緒に参加し、屋台での食事や演芸など楽しんでいる。近所の方が自宅で採れた野菜をおすそ分けしてくれることもある。	幼稚園や小学校など、子ども達との交流機会を増やせるよう、働きかけを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市が主催する認知症研修会にアドバイザーとして参加したり、運営推進会議、夕涼み会等を通じて、GHの取り組みや認知症のケアについて、ご家族や地域の方にお話しをしている。学生の研修の受入れは、事前に研修を行い十分理解を得た上で実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催できている。毎回ご家族の方全員に参加を呼びかけているが、仕事の関係で欠席される方もおられる。検討が必要な事は職員会議で報告し、今後も貴重な意見をサービス向上につなげていきたい。	家族や市職員、民生委員、町内会長などの参加により定期的に開催している。家族の参加を増やすために年6回のうち、3回は平日、3回は土日で開催している。参加者から色々な意見があり、事業所のできるかどうか、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議だけではなく、電話やメールで情報交換をしている。施設の利用状況や待機人数なども伝えている。	市職員とは電話やメールなどで情報交換している。市の主催する会議への参加も積極的に参加している。管理者は市職員と顔なじみの関係を築いており、些細なことでも気軽に相談することができる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	荘内は常に出入り自由にしており、施錠は夜間のみである。外出しそうな気配を察知したらさりげなく声かけしたり、本人の思いを聞きながら一緒に歩くようにしている。身体拘束廃止についてマニュアルを作成し職員で共有している。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、身体拘束をしない支援に努めている。施錠もしておらず、帰宅願望の強い利用者がいれば、一緒に外を歩いたり、危険があるときには見守りを増やすなど対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連について会議等で勉強会を行うが毎回ではない。職員間で日頃からコミュニケーションをとり、職員がストレスを感じていないか把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度、利用中の方は1名おられる。制度について全体で学ぶ機会は設けていないが、今後は計画していこうと考える。分からない事があれば市の担当者にその都度確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等は細かい内容を確認しながら読み上げ同意をもらうようにし疑問点には答え説明し理解を得るようにしている。又、分からないこと等は遠慮なくその都度言って頂くようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に歩みの箱(ご意見箱)を設置しているが利用がなく、ご家族には用紙を配布したり、意見や苦情がないか面会時に声を掛けたりしている。気になることがあれば申し送りノートに記載して情報の共有を図っている。	家族の面会時にはお茶を出したり、利用者と一緒に写真を撮ったりし、コミュニケーションを図っている。その関係の中で意見や要望を聞き、対応している。家族会は年2回あり、利用者と一緒に行事や食事を楽しんでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの意見を尊重している。職員会議等で意見や提案を聞いている。	職員の勤務年数も長く、関係作りができています。外出行事や日々の利用者支援について等、職員から意見、提案が多く、できるだけ取り入れている。現場の職員の意見は管理者がまとめて支部長など上司に伝えている。	個人面談など、現在は行っていないとのこと。業務の中で職員の個性は把握しているため、今後職員の得意不得意など深く知り、不得意分野を伸ばすことで全体のスキルアップを期待しています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	土日の勤務、夜勤もあるが、勤務希望には対応し私用や家族の病気等有給休暇で対応している。また、年2回の健康診断を義務付け該当者には精密検査も受診させている。資格取得にも挑戦させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部、支部等研修制度が充実しており、職員のレベルや業務の担当、学びたい事に応じて研修に参加している。市が実施している認知症研修会にも積極的に参加し研修後は復命書を回覧し、内容を共有すると同時に職員会議で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、情報を得ると同時に支部や近隣の研修には多くの職員が参加している。市内のグループホームとも定期的に会議を開催し情報を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接では家族、本人に会って要望等に耳を傾けている。ご本人の嗜好、生活等を詳しく聞くようにしている。ご本人の思いや要望をできるだけ把握し安心してご利用いただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていること、求めているものを理解するように努め事業所としてどのような対応ができるか相談している。遠慮なく何でも言ってもらえる様な関係が築けるように努めていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合は可能な限り柔軟な対応を行い。緊急性など場合によっては他施設の申し込み等をすすめる場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しお互いが支えあい、人生の先輩として敬い、生活の中で多くの事を学ばせていただき、共に共感し合える関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態をこまめに報告、相談する事とともに担当者が記入した「近況報告」を毎月送付している。行事や運営推進会議に参加していただき利用者さんと過ごす機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院には昔から利用している馴染みの店へ出掛けている。外出困難の方には訪問理容を行っている。本人の希望により他施設への面会を実施している。ホーム内では利用者同士及び職員を通じて良好な関係が育まれるようなケアを行っている。	お正月には半数以上の利用者が自宅に帰って過ごすなど、外出や外泊には家族の協力が大きい。馴染みの美容院へ出かけ、お店の方と昔話をしている方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人になりたい時や一緒にいたい時の雰囲気を知り思い思いの時間を過ごせる様に支援している。レクリエーション、作業等に関わりを持ち親睦を深め、お互いを支え合える関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に変わられた後も、電話等で様子を聞いたり面会に行く事もある。退所されたご家族のサポートは少ないが、事業所へは必要に応じて情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めているが困難な時にはご家族様より、情報収集を行い、それによって得た情報はスタッフ間で共有し本人の気持ちに沿ったケアをしている。	職員と利用者との関係作りを基本とし、日常会話の中で思いや意向を把握している。うどん打ちが得意な方や白和えの味付けをしてくれる方、他施設に入所している夫に面会に行く方など、職員は利用者の思いを共有し、実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に本人も含め、ご家族様からも話を聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを尊重しながら日々のケアに努めている。変化が認められた時は申し送りやケア記録などで情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限りご本人やご家族の要望を取り入れるようにしている。モニタリングは職員会議、通常の業務中等でその都度、他のスタッフの意見を聞いている。	月1回の職員会議での意見交換や日々の申し送りノートなどを反映し、ケアマネージャーがプランを作成している。身体状況を考慮しつつ、本人が一番に考えていることは何かと考え、その思いを大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケア記録に記載し、重要な申し送りは他に連絡ノートや介護管理日誌等に記載している。業務開始前にこれらの記録に目を通すように徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟な対応をしたいと考えており、そのためにもニーズの把握やご家族との情報交換を密に行っていきたい。臨機応変な対応に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに民生委員、町内会長を位置づけている。良好な関係が築けているが、徐々に地域の方の面会(訪問)は減ってきている。社会福祉協議会主催の夏のボランティア体験事業に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医療機関への受診はスタッフがいき、特変や内服薬の変更があればその都度ご家族に報告している。それ以外の病院受診は症状の把握のためにも原則、ご家族に同行していただくようにしている。	入居時にかかりつけ医を協力医療機関に変更する機会が多く、現在は全員協力医療機関がかかりつけ医となっている。月1回、職員が付き添い、通院支援をしている。地域で病院同士の情報共有が出来ており、入院などが必要な場合にもスムーズに対応できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を図っており、週1回看護師に訪問していただき、ご利用者さんやスタッフの相談にのってもらいアドバイスしてもらっている。毎週末には協力医院からの電話での聞き取りがありもしもの時の土日受診がスムーズに行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前には情報共有書を作成し病院関係者との情報交換や相談に努めている。入院中は適宜様子をうかがい、退院に向けて病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診結果等変わった事があれば、その都度ご家族に報告している。終末期のあり方についてはご本人、ご家族、医師、看護師、スタッフと共に必要に応じて協議し方向づけている。	入居時に重度化対応、終末期ケア対応指針について説明をしている。今の所、看取り支援の経験はないが、家族の希望があり、医療面や介護面の方針の共有ができれば、対応していく方針である。	現在お元気な利用者が多いが、高齢のため、心身の変化はいつ起こってもおかしくないと思われます。看取り支援の心構えや実際の対応など職員と一緒に考え、必要であれば研修実施などの検討をお願いします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員数名が救命救急講習を受講している。緊急連絡網や緊急連絡先の一覧がすぐわかるように掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練(昼、夜想定)崩土を想定した避難訓練を行っている。災害時の備蓄食品等の準備もしている。地域との協力体制としては近所の方をホットラインに登録している。	年2回、隣接するデイサービスと合同で避難訓練を実施している。今年度は火災と土砂災害を想定し、消防署立会のもと実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室はご利用者さんのプライベートスペースであるという事を認識し入室時にはノック、声かけを行い入室している。トイレや入浴等の誘導には対応に配慮した声かけを行うように努めている。	本人と個人的な話をするときには居室に入り、1対1で話をするなど配慮している。トイレは各部屋についており、プライバシーが守られている。失禁があった時には本人が恥ずかしくないよう、さりげなく対応している。声掛けは敬語だけではないが、愛情と親しみを優先している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者さんからの訴えに対しては本人の意向を聞くと共に表情も観察しながら気持ちに添った支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など基本的な一日の流れは決まっているが、時間を区切った過ごし方は決まっていない。できるだけご利用者さんがしたい事、行きたい所を聞き、希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者さんには地元の方が多く、昔からの馴染みの店へカットやパーマ等を出掛けている。化粧品や衣服についても希望するものを使用できるように注意し、時には一緒に買い物に行き選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は日常生活の中でご利用者さんの好みを理解しているが、個々の誕生日や行事のある日には相談してもらっている。キッチンが荘の中心にあり料理の様子を見たり、香りを感じたりしやすく、配膳等の手伝いも積極的に協力してもらえている。	食事は献立作成、調理など職員が行っている。昼食は12時30分頃、夕食時間は18時30分頃であり、家庭に近付けるようにしている。料理や汁物の盛り付けや食器洗いなど利用者の役割を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	診療所との連携もあり水分チェック表を使用している。個々の服薬や病状をみて食事量や内容に気をつけている。月に1度体重測定をしチェックしている。個々にご自分の茶碗や湯のみを使用しておりご飯の量も調整しやすくなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをして口腔ケアをしていただいている。必要に応じて仕上げ磨きをしている。定期的に歯科往診、歯科受診があり義歯の管理や手入れができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の頻度や量に応じてパットの大きさ、コスト等を考えて支援している。下着もすぐに紙パンツにせず、失禁パンツ(布)等を使用しパット等も家族と相談しながら行っている。必要な方はポータブルトイレを使用して自分で排泄できる環境にしている。	紙パンツやパット、ポータブルトイレなど活用し、利用者1人ひとりにあった排泄支援を行っている。また、誘い方も個々に合った声かけをするよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、排便のチェックをして便秘や下痢等に気をつけている。乳製品や食物繊維が不足しないようにしている。又、日々の体操やレクリエーション等でも体を動かし運動不足にも注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には2日に1回の入浴だが、体調や状況に応じて変更もある。時間帯も一人ひとりの状態や希望を聞き、落ち着いて入浴ができるように工夫している。	週3回を基本とし、入浴支援を行っている。本人希望で毎日入浴している方もおられる。入浴のない日は簡単な清拭と着替えを行っている。着替えの服を選ぶ所から始めるため、ゆったりと時間をかけて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の入眠希望の時間に合わせて安心して入眠できるように働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬表をまとめて1冊にして誤薬がないように2重にチェックしている。変更があれば分かりやすく記載し個別の記録にもアンダーラインを引いている。落薬を防ぐために口に入れて確実に飲み込むまで見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者さんの性格や嗜好を把握し、その人に合った役割が持てるように生活できる場を提供し、生きがいを持って生活ができる様にしている。野外に家庭菜園やしいたけ園などを作り一緒に種まきやら収穫まで楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者さん個々の希望や体調に考慮しつつ、数名ずつ外出したり、個別の外出日も設け、希望や興味に職員が寄り添っている。全体でのバス旅行もあり、ご利用者、職員のみならず家族の参加もあり楽しんでいく。	事業所の周りは遊歩道やグラウンド、郷土資料館などがあり、季節の移り変わりを楽しみながら散歩などしている。年1回はバス旅行を企画し、家族も一緒に楽しめるようにしている。また、利用者の希望を聞き、お好み焼きやラーメンを食べに行くなど少人数での外出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に防犯のためにもお小遣いは事務所で管理しているが、外出や行事の際には利用者さんの希望や力に応じて自ら支払える様にサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者さんの希望があれば、ご家族の都合も聞き、時間帯の良い時に、電話連絡し、直接話ができるように支援している。手紙のやり取りができるようにも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下から見て居室が分かりやすいように表札をつけ、ご利用者さんやご家族の写真を貼っている。壁には作品や飾り物で季節感を出すように工夫している。小さな和室でも談笑できる。水槽もあり。生き物とかかわりのある家庭的な空間になるように心がけている。	談話室と食堂をそれぞれ用意しており、メリハリのある生活を行っている。談話室や廊下には利用者のちぎり絵などの作品が飾られ、にぎやかである。小さな畳スペースがあり、ひな人形が飾られ、季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の外にもベンチ等を数ヶ所設置している。施設内でも談話室や三畳間、玄関等ゆったりと過ごせるスペースがあり、自由に思い思いの場所で過ごしていただけるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、長年自宅で使い慣れた家具や衣服が持ち込める様になっている。	居室は和室や洋室が用意され、トイレや流し台、縁側などが用意されている。縁側から中庭を眺めたり、日向ぼっこをしたりくつろぐことができる。部屋の表札には家族と一緒にの写真や季節の飾り物など担当職員が工夫を施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の表札は見えやすい角度に設置している。ご家族との写真も掲示し自分が分かりやすいようにしている。残存能力がいかにせるように物の位置に配慮した環境整備を行っている。		